

千葉北西連絡道路地元検討会（第1回）

議事概要

令和6年2月19日（月）

■地元検討会の設立について

- 千葉北西連絡道路の整備による新たな環状方向の道路網の形成により、業務核都市間や他の地域等との連結性を強化する観点から、概略計画の検討（計画段階評価を含む）を進めることを目的に地元検討会を設立。なお、「千葉北西連絡道路の道路計画の基本方針」において常磐自動車道とのアクセス性を考慮するとされていることから、常磐自動車道を管理している東日本高速道路（株）もオブザーバーとして参加。

■課題及び配慮事項について

- 千葉県北西地域唯一の幹線道路である国道16号の柏IC～呼塚交差点付近では交通容量を超過しており、日中を通して旅行速度が20km/h以下の区間が多く、柏ICや呼塚交差点を中心に県平均の3倍以上の渋滞損失時間が発生。災害時において代替路不足による安全性も懸念されている。
- 国道16号沿線は大型商業施設や工業団地が立地しており、今後も物流施設の新規立地が見込まれているほか、交通アクセスの利便性向上や周辺施設の拡充などによる人口の増加など、更なる交通需要が見込まれる。
- 野田市の江川地区のほか、手賀沼・古利根沼等の豊かな自然環境が形成されており、これらの自然環境の保全に配慮する必要がある。

■千葉北西連絡道路地元検討会のとりまとめについて

- 千葉北西連絡道路の必要性・整備効果について、対象地域周辺の地域特性、交通課題等を沿線地域住民等に情報提供するとともに、対象地域で感じている交通課題や道路整備への要望等の意見を把握すること。
- 沿線地域住民等への意見聴取を実施する際には、地域の分断や自然環境などに配慮しつつ、地域産業に資する土地利用の促進に寄与する計画とすることを考慮し、ホームページや、オープンハウス、ワークショップ等、様々な方法を活用して丁寧に情報を把握すること。

■主な意見

- 物流関係の効果が先行して見えてしまうため、物流関係車両が高規格道路を利用することで生活道路の安全性なども向上するという面も大いに打ち出した方が良い。
- 検討にあたっては、自然環境や景観には十分留意することは前提とし、生活環境の面についても併せて検討が必要。
- 地域とのコミュニケーションについては、実施することがしっかりと認識されるよう周知の仕方に工夫をするとともに、開催日や場所など、参加される方々が参加しやすいような設定が必要。
- アンケートの内容や関連資料については、沿線地域住民等にわかりやすく伝わるよう、引き続き検討すること。